

## 念願の教育学部研究棟

### 新営工事始まる



完成が待ちどおしい教育学部研究棟

この度、教育学部の積年の要求であった「教育学部研究棟」が新営されることとなった。

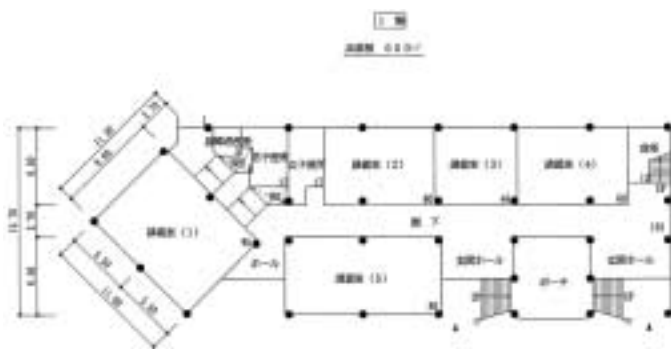
教育学部においては、近年、大学院の新設、学部改組、カリキュラム改革等が相次ぎ、講義室、演習室等の不足が一段と深刻になって、講義室等の整備・充実が緊急の課題となっていた。

今回、関係者の尽力により、研究棟の新営が実現することとなったもので、五月十五日(月)には、本部から学長、副学長、事務局長等が、教育学部からは、学部長、評議員等が参列する中、起工式が執り行われた。

新研究棟は、鉄筋コンクリート三階建一、八

七五㎡の建物で、壁面に白っぽいタイルを施した瀟洒な建物となっており、建物内は、授業や研究会等に使用される講義室が九室配置されるほか、各種の実験室や演習室が設けられることとなっている。この建物は、本年十一月末に完成し、教育学部の教育・研究活動等に大いに活用されて、教育学部の発展や地域との交流の推進に大いに寄与するものと期待されている。

なお、建物の位置は、現在のA棟(人文・社会・教育棟)及びB棟(自然科学棟)に隣接する形で建設される。



研究棟1階平面図

## 近江の散歩

「近江商人」の里、五個荘町へのいざない

世に「ベンチャー精神・ベンチャー企業」という単語が氾濫するご時世となっている。「ベンチャー精神」とは「軽薄なる冒険心」の謂いだとしたのは、とある詩人であった。その感性に納得しながらも、「何を今更…」という思いを抱いたのは、たぶん「近江商人」を輩出した土地に住み、「近江商人」を研究対象としているからだろ。

滋賀県には「近江商人」の里を標榜する所は幾つもある。近江八幡市・日野町・五個荘町・安曇川町・高島町等など、それぞれが由緒と正当性を述べている。これらの自治体が主張する「近江商人」は、学問的な観点からいえば問題がなきにしもあらずであるが、滋賀県自体が「近江商人」を顕彰しながら経済の活性化を図っていることもあり、なかなか実像の修正は困難なように思われる。少なくとも滋賀大学では、学問的に「近江商人」を学んで貰いたいと希望している。

さて、このような事情はあるにせよ、「近江商人」の里を散策に出かけることは意義あることだと言える。上記のいずれに出かけても新しい知見を得ることができることは請け合いたが、時間に余裕のある人々は五個荘町を訪れたら良いだろう。

ここは「てんびんの里」を名乗り、町営の近江商人博物館には戦国期以来の当地の商業活動に関わるパノラマや史資料が常設展示され、企画展が年に四回ほど行われる。とりわけ「金堂」地区は、商家の町並みの景観保存がなされ舟板塀の「近江商人屋敷」が公開されている。地区を流れるせせらぎには錦鯉が泳ぎ、津和野の町を彷彿させる。村の弘誓寺の壮行さは、富裕な商人の信仰の篤さと富の地域社会への還元の生きた教科書である。